

新潟脳神経研究会第317回例会

日時：令和元年11月12日（火）18:15 ～ 19:15

場所：脳研究所 1 F 検討会室

1) Globular glial tauopathy: 臨床病理亜型に応じたタウ陽性構造の形態学的特徴

(25分)

田中 英智 (新潟大・脳研・病理学分野)

Globular glial tauopathy (GGT) はtauopathy (タウ蛋白の異常凝集を認める神経変性疾患の総称) に属する比較的新しい疾患概念です。グリア細胞内の類球状タウ蓄積を特徴とし、臨床症状や病変分布から3つのサブタイプに分類されます。GGTの複数剖検例を解析し、サブタイプに応じたタウ陽性構造の特徴について検討したので報告します。

2) 人工知能が獲得した特徴量を読む

(30分)

松澤 等 (新潟大・脳研・統合脳機能研究センター)

深層学習の登場により、人間が前もって”特徴量”設計をしなくてもAI自体が入力データの学習により“特徴量”を自動的に獲得する様になり、画像診断への道が大きくひらけたが、逆にその判断過程は著しく複雑となりblack box化した。演者は、AIが獲得した特徴量の一部を読み出し利用する技術であるGenerative Adversarial NetworkとAdversarial Exampleの実装に成功し、臨床画像に応用したので報告する。

どうぞ奮ってご参加ください。

(担当：分子神経生物学分野)
新潟大学脳研究所長：那波 宏之